

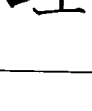
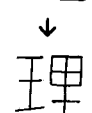
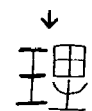
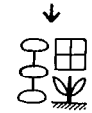
理

二年

画数 11
筆順
リ

理 理 理 理

成り立ち



「田んぼみち」をあらわし、「みちすじ」といういみの「里」と、「玉」のかたちをあらわし、「たま」のいみの「王」とをくみあわせてつくった字です。

うつくしい玉には、「すじめ」のようがあつて、それが玉をうつくしくしています。それで、「ほうせき」をりっぱにしあげるのには、このすじめをうまくいかにことに気をつけます。「りっぱにしあげる」といういみにつかう字です。

また、「すじめ」「すじみち」といういみにもつかわれます。

「王」を「王へん」とよむのはまちがいです。「玉へん」とよみます。なぜでしょうか。玉(16)のところをみてください。

使い方

▽あなたがちこくしてきた理由を、せつめいしなさい。
▽理科のじゆぎょうで、川のべんぎょうをしました。川のように、上流と下流でちがうこと、また、その理由をおそわりました。

▽おかあさんは、いつも、ぼくに、へやの中を整理しておくように、いいます。ぼくは、ついへやをちらかしてしまいます。でもつくえのまわりを整理しておくとなにかどこにあるかわかつて、とてもべんりなので、なるべく、きちんと整理するように、どりよくしています。

熟語例

- ▽理由(わけ)
- ▽整理(ちらかっているものを、きちんとかたづけるところ。「整理整頓を、こころがけましょう」など)
- ▽理髪(髪をととのえて、りっぱにしあげること。「理髪店」といえば、とこやさんのことです。)
- ▽理論(ものごとを、すじみちをたてて、まとめたもの。「理論をたてて、せつめいする」など)

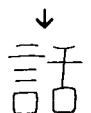
話

二年

画数 13
筆順
ワ

話 話 話 話

成り立ち



話のじようずな人のことを「舌がよくまわる人」といいます。「舌」をうまくつかつて「言う」ことが「話」をするのにひつようだからです。「舌(5年165)」と「言(2年121)」とをくみあわせて「話」という字をつくり、「はなし」といういみをあらわしました。

また、「おはなし」「ものがたり」といういみにもつかわれます。

使い方

▽きのうのあつまりでは、話題がひろがつて、とてもゆかいてした。

▽ぼくは、話をするのが、あまりうまくありません。話しかたのけいこをして、うまく話ができるようになるとういとおもいます。

▽わたしは人の話をきくのが、だいすきです。いろいろな人の話をきくのは、あたらしいちしきがふえるので、とてもたのしいのです。本をよむのもすきです。このあいだは、ふゆ山でそうなんした人をたすけた、ゆうかん犬の話をやみました。とてもかんどうしました。

熟語例

- ▽話題(話の題材。話のテーマ)
- ▽童話(こどものためのお話。童話というのは、こどものことです。「ぼくは、『グリム童話集』を読んだ」など)
- ▽寓話(たとえ話。たべになることを、じかにではなく、なにかにたとえて話したもの。ゆうめいな寓話には、「イソップものがたり」があります。)